

# ◎旧朝香宮邸の歴史を訪ねて

連載◆第33回/宮邸家具や照明デザインの源泉

## Residence of Prince Asaka 1933—

昨年の25周年記念「1930年代・東京」展では、いくつか新たに判明した朝香宮邸についての調査結果を紹介することができました。

同展でも関連資料を展示したとおり、宮内省くわいしょうの技師こんどう権藤要吉はアール・デコ博覧会の開催

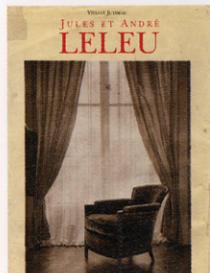


図1

された1925年に1年間渡欧して、欧州の革新的な建築や芸術を肌で感じて帰国、その経験を活かして宮邸建設に臨みました。しかし権藤の下で建設きてに関わった技手\*1や

匠生たちはどのようにしてアール・デコ様式を学んだのでしょうか。当時、内匠寮の匠生であった方によれば、内匠寮工務課では国内外の建築関係の書籍を購読していたとのこと。25周年記念展では関連書籍を提示し、デザインの影響関係を明らかにしました。

これまでもエドガー・プラントの金工作品やマックス・アングランのガラス装飾と、宮邸のラジエーター・カバーのデザインとの類似性などは指摘されていたところですが、プラントらのほかにも、当時フランスで活躍をしていた装飾美術家ジュール・ルルー、照明工房ジュネ・エ・ミシヨンのデザインからも影響を受けていたことが判りました。

ジュール・ルルーのデザインとの関係がみられるのは1階喫煙室の応接ソファです。(図2)カーブ



図2

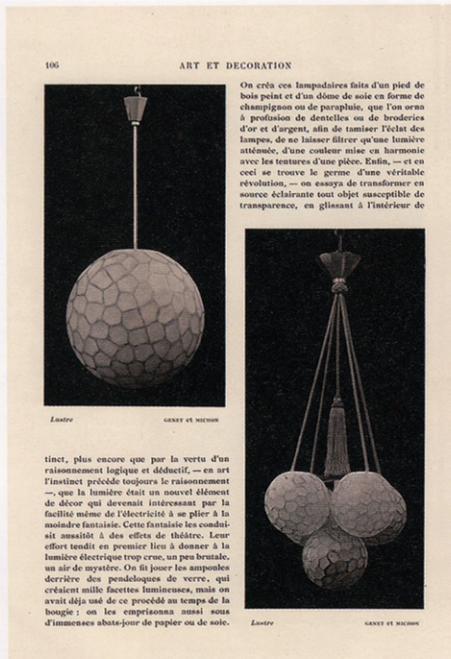


図3

を描いた背もたれ、布地と木部のバランスなどから、その影響は明白です。また2階姫宮居間の照明もまたルルーのデザインと大変良く似ています。

ジュネ・エ・ミシヨンのデザインを参考にしたとみられるのが妃殿下居間のボール型のシャンデリアです。(図4)フランスのインテリア雑誌『アール・エ・デコラシオン』に掲載のジュネ・エ・ミシヨンのシャンデリア(図3)は妃殿下居間の照明と酷似しています。しかし宮邸工事録にはこの照明の図面が

あることから、掲載写真を参考に日本で制作したと考えられます。そのほかにも海外の照明デザインからインスピレーションを得たとみられるのが宮邸玄関車寄せと2階間の天井照明です。調査の成果からは、海外の情報を取り入れ試行錯誤しながら宮邸のアール・デコ様式を作り上げていった技師たちの姿が見えてくるようです。(高波) ◆

図1. Viviane Jutheau, Jules et André LELEU 表紙

図2. 喫煙室応接ソファ

図3. 『アール・エ・デコラシオン』リブレリ・サントラル・デ・ボザール、1926年10月号、p106

図4. 妃殿下居間シャンデリア

\*1. 技師の下に属す技術者



図4